



広域連合だより

—第44号—

ホームページ
<http://www.kesen-koiki.jp/>

2020.12

し尿汲取り料を

令和3年4月1日から変更します



気仙広域連合では、各家庭から排出されたし尿を気仙広域連合衛生センターで適切に処理しています。近年は、消費税率の変更に伴い、し尿汲取り料を変更していましたが、し尿の処理量は水洗化人口の増加などの影響により年々減少しており、この傾向は今後も続くものと見込まれます。

また、諸経費の上昇により、し尿の収集運搬に係る費用も高騰している状況となっています。

このことから、清潔で快適な生活環境づくりに向けて、今後もし尿の処理業務を安定して実施するため、令和3年4月より、し尿汲取り料を変更しますので、ご理解をお願いします。

変更内容

■ 50ℓあたり

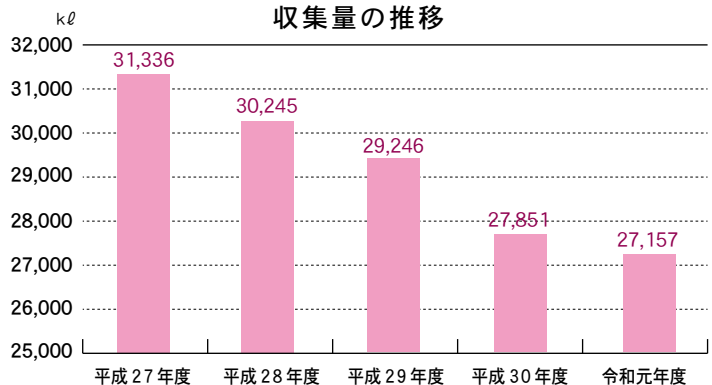
346円 → **380円**

■ 1回の収集量が200ℓ以下の場合

1,384円 → **1,520円**

※ 50ℓ未満のし尿汲取り料は、切り上げとなります。

収集量の推移



令和元年度決算の概要

～ 広域行政の推進に 3億7,154万円 ～

11月26日、令和2年気仙広域連合議会第2回定例会が開かれ、令和元年度の一般会計及びふるさと市町村圏基金特別会計の決算が認定されました。
 一般会計の歳出総額は、3億6,864万円、ふるさと市町村圏基金特別会計の歳出総額は290万円で、一般会計と特別会計を合わせた歳出総額は、3億7,154万円となり、歳入歳出差引額1,133万円は令和2年度に繰り越しました。

一般会計

一般会計の歳入（収入）は、3億7,416万円、歳出（支出）は、3億6,864万円で、前年度と比較すると、歳入が78・5%の増、歳出が83・1%の増となりました。

【歳入】

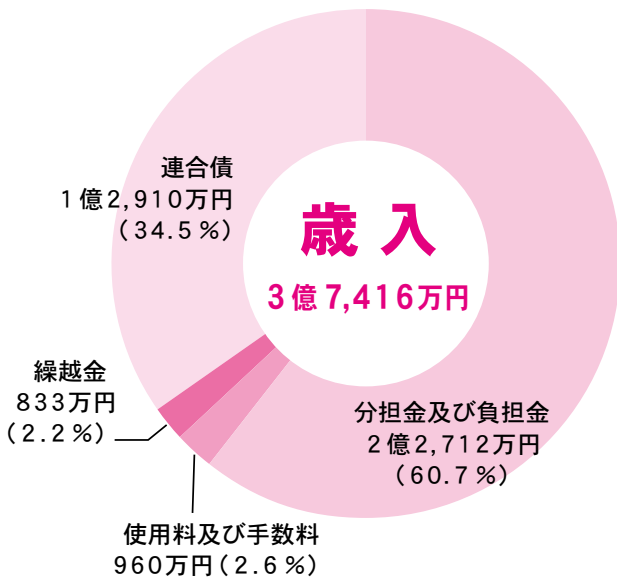
構成市町（大船渡市・陸前高田市・住田町）からの分担金・負担金が2億2,712万円（60・7%）と最も多く、次いで脱水機の設備更新に伴う連合債が1億2,910万円（34・5%）、衛生センター使用料、し尿処分手数料などの

使用料・手数料が960万円（2・6%）、前年度からの繰越金が833万円（2・2%）の順となっています。

【歳出】

し尿処理施設の維持管理などに充てられる衛生費が3億3,400万円（90・6%）と大半を占めており、次いで介護認定審査判定業務に係る介護保険費が3,234万円（8・8%）、総務費が185万円（0・5%）、議会費が39万円（0・1%）の順となっています。

一般会計決算の内訳【歳入】



項目	令和元年度 決算額	平成30年度 決算額	比較
分担金及び負担金	2億2,712万円	1億8,695万円	4,017万円
使用料及び手数料	960万円	975万円	△15万円
繰越金	833万円	894万円	△61万円
諸収入	1万円	1万円	0万円
連合債	1億2,910万円	400万円	1億2,510万円
合計	3億7,416万円	2億965万円	1億6,451万円

岩手県へ要望活動

～広域課題の解決に向け～

気仙広域連合では、8月3日、大船渡地区合同庁舎において、岩手県への要望活動を実施しました。

今年度の要望活動は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、出席者数を減らしての実施となり、当広域連合からは、広域連合長である戸田公明大船渡市長、副広域連合長の戸羽太陸前高田市長、神田謙一住田町長、広域連合議会の鶴浦昌也議長が出席しました。

気仙地域における広域の重要課題として、右表の12項目について要望しました。



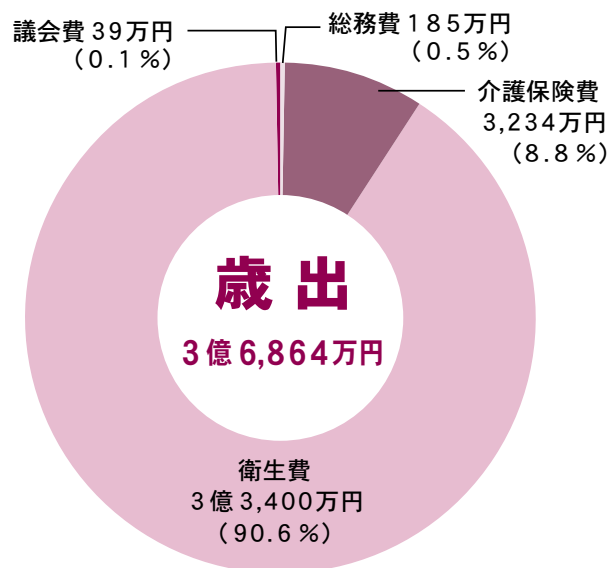
森沿岸広域振興局長(左)に要望書を手渡しました

＜令和2年度要望項目＞

1	防災・減災対策の強化について
2	持続可能な地域公共交通の構築について
3	放射能汚染された農業系廃棄物対策の強化などについて
4	鳥獣被害対策の強化について
5	医療・介護・保健などの連携支援について
6	地域医療体制の強化・充実について
7	被災事業者への支援策の拡充について
8	広域観光の推進について
9	主要幹線道路の整備について
10	高田松原津波復興祈念公園の整備促進について
11	大船渡港湾の整備と利用促進について
12	国際リニアコライダー（ILC）の北上山地への誘致・実現について

一般会計決算の内訳【歳出】

項目	令和元年度 決算額	平成30年度 決算額	比較
議会費	39万円	63万円	△24万円
総務費	185万円	394万円	△209万円
介護保険費	3,234万円	3,150万円	84万円
衛生費	3億3,400万円	1億6,520万円	1億6,880万円
公債費	6万円	5万円	1万円
合計	3億6,864万円	2億132万円	1億6,732万円



ふるさと市町村圏基金特別会計

特別会計の歳入は871万円、歳出はふるさと市町村圏事業費として290万円となり、前年度と比較すると、歳入が17・5%の減、歳出が9・8%の増になっています。

【歳入】

歳入の内訳は、前年度からの繰越金が791万円(90・8%)と最も多く、次いで基金運用の利子収入である財産収入が80万円(9・2%)となっています。

【歳出】

ふるさと市町村圏事業費の内訳は、広域観光物産振興支援事業(100万円)、国際交流事業(190万円)の2事業となっています。

■広域観光物産振興支援事業

三陸・けせん観光協議会が首都圏で開催した「三陸・けせん観光物産フェア」に対して補助金を交付し、物産の販路拡大と観光誘客の促進を図りました。

■国際交流事業

国際交流に必要なコミュニケーション能力と異文化に対する理解を深めるため、大船渡市民文化会館を会場として「キッズサマースクールinけせん2019」を開催しました。

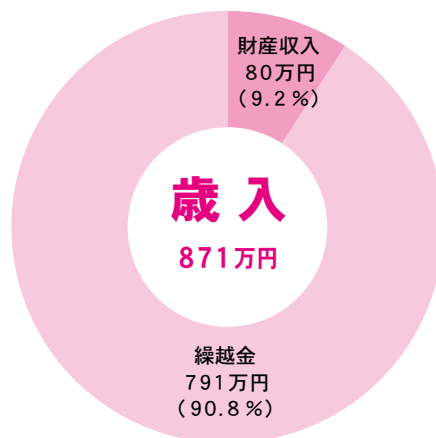
※構成市町の出資と岩手県の助成により「ふるさと市町村圏基金」を造成し、その運用益を活用して、広域的な地域振興事業を実施しています。



ふるさと市町村圏基金特別会計決算の内訳

【歳入】

項目	令和元年度 決算額	平成30年度 決算額	比較
財産収入	80万円	155万円	△75万円
繰越金	791万円	900万円	△109万円
合計	871万円	1,055万円	△184万円



歳出

290万円

ふるさと市町村圏事業費
290万円
(100.0%)

【歳出】

項目	令和元年度 決算額	平成30年度 決算額	比較
ふるさと市町村圏 事業費	290万円	265万円	25万円
合計	290万円	265万円	25万円